



第一礼拝次第

メッセージ: 渡真利彦文牧師
プレズド: 郭永東牧師

前奏
頌栄
主の祈り
ブレイズ
聖書朗読
祈禱
賛美
メッセージ
祈禱
賛美
聖餐式

540

「初めの愛」
「主の足もとに」
マタイ 16:17-19
(新約聖書 p32)
聖歌 340
「あなたはペトロ」

新生 300

献金
報告
頌栄
祝禱

新生 672b

会衆
会衆
会衆
司会
司会
会衆
牧師
牧師
会衆
司会
会衆
牧師



第二礼拝次第

メッセージ: 郭永東牧師
司会: 渡真利彦文牧師

聖書: ハバクク 3:16-19 (旧約聖書 p1468)

メッセージ: 「主によって喜び」
プレズド: 「主イエスをほめよ」
「御霊のそそぎ」
賛美: 新生 447 新生 552



ファミリー礼拝

聖書: マタイ 26:14~30
メッセージ: 「最後の晩餐」

<巻頭言>

「主の宣教の目と心」

牧師 渡真利彦文

4つの福音書のうち、最も早い時期に書かれたのがマルコの福音書であろうと言われています。

弟子たちにとって、主イエスの生涯は言うまでもなく、また十字架と復活の出来事は、書く必要もないほどに記憶に生々しかったに違いありません。

そして復活の主に出会うという劇的な体験をした彼らのうちに強く留まっていたことは、「全世界に行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい。」(マルコ 16:15)と言われた主の言葉でした。

ペンテコステの聖霊経験後、福音が世界に向かって宣べ伝えられている様子に、自らも伝道旅行の経験があったマルコは、感動的に最後の章を締めくくったのではないのでしょうか。

ところで、主の宣教の目は常に「全世界」に向かい、「すべての造られたもの」に向かっていました。国境や地域を超えて全世界に向かい、人種や民族を超えて全人類に向かっていました。しかも、主は「町々、村々」を歩き巡り、一人ひとりに目を向けられたのです。

38年も患って地面に体を横たえるしかなかった人に近づき、木の上から見下ろしていたザアカイに、「今日、救いがこの家を訪れた。この人もアブラハムの子なのだから。」と声をかけられたのです。

私たちも主の弟子として、主と同じ宣教の目と心を持ちたいものです。

日本の救い、アジアの救いそして世界の救いを祈りつつ、そして最も身近な人たちの救いのために最善を尽くしましょう。